

令和3年度

自己点検・評価年次報告書

茨城県立医療大学

令和3年度年次報告書の概要 ～令和3年度の主な動き～

1. 理念・目的（設定・公表・中長期の計画その他の諸施策を設定）

本学は、急速に進展する21世紀の少子高齢化時代に対応した時代のニーズに応え、在宅ケアを中心とする地域医療など、幅広い医療分野に対応できる高い資質と豊かな人間性をもった看護職、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師などの医療専門職を育成することを目指している。この理念・教育目標は、大学のホームページやパンフレットなどにより、広報委員会を中心に多様な方法で学内外への広報活動に努めている。令和3年度は学内外への広報活動を適切に実践するため、大学ホームページの英語翻訳機能の追加、教員写真の掲載を実施した。

基本理念に基づき、地域で期待される医療専門職養成のため、第5次カリキュラムを編成し、文部科学省に申請し承認を得た。大学院においても、看護学専攻に新たな履修要件に対応した3つのCNSコース（老年、小児、精神）を日本看護協会に申請して承認を得た。

国家試験は理学療法士で100%を達成したが、看護師、保健師、作業療法士、診療放射線技師では100%に満たなかった（統計資料編18 国家試験合格率）。就職率においては、就職希望者については100%を学部、大学院、助産学専攻科全ての課程で達成した（統計資料編19 就職率）。新卒者の県内への就職率は、令和3年度は各学科で65%以上となり、地域における医療専門職を養成する本学の理念を概ね具現化できた（統計資料編20 進路状況と県内定着率）。

2. 内部質保証（方針、責任体制、システムの機能の有効性、説明責任）

令和3年度は大学機関別認証評価を大学教育質保証・評価センターで受審し、5月末に点検ポートフォリオの提出、10月6日に実地調査を受け、令和4年3月25日に適合の評価を受けた。点検ポートフォリオ及び評価結果はweb ページに掲載した（<https://www.ipu.wc.jp/about/uaa>）。

独立行政法人化に向け、中期計画・中期目標検討ワーキングで素案を作成した。また、第2期アクションプランの前期5年が終了すること、法人化を控えていること、認証評価受審機関が変更になったことから、2022年以降の年次報告書の書式の変更について着手した。

令和2年度年次報告書の編纂は予定よりも大幅に遅れ、11月1日に大学ウェブページに掲載した。

内部質保証を推進するための教学IRについて、教学に係る基本データを収集し、データの集計・分析を実施し、学務委員会及び拡大教授会での情報提供に加え、学内公開サイトを開設し、積極的な情報提供に努めた。

3. 教育研究組織（適切性、点検・評価-改善・向上）

大学の教育理念・目的を達成するのに適した教育研究の推進のために、アドミッションセンター、教育・学修センター、キャリア支援センター、地域貢献研究センターの4センターを円滑に運営し、本学に適した学生を受け入れ、能力の高い医療従事者を育て、社会に送り出すまでを一貫して行えるよう、組織

体制の連携を図り、運営は適切に行われている。また、難病支援センターなどの地域の医療職への支援に努めた。

より広く県民の期待に応える大学院を目指し、大学院博士前期課程を現在の3専攻から1専攻に変更する議論を開始した。また、認証評価の現地調査の際に指摘のあった、アドミッション・ポリシー関連事項の見直し、大学院在学者数増加に対応する指導体制の見直しを開始した。

4. 教育課程・学修成果（学位授与方針の設定・公表、体系的編成、学習の活性化、成績評価の適切性、点検・評価-改善・向上）

学部、大学院、専攻科のいずれの教育課程においても、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、大学ホームページ、大学パンフレットなどのメディア、高校連絡会等を通して、茨城県内の高校生に対する公表・周知はより力を入れた。また、オープンキャンパス、大学院説明会においても入学希望者や社会に周知した。特に大学院においては、テレビ会議システムによる授業、研究指導を積極的に導入することを次年度学生募集要項等に記載し、遠方からも入学生を募ることとした。

学部では、カリキュラム策定ワーキングにおいて第5次カリキュラム策定を継続した。2022年度開始の放射線技術科学科のカリキュラムを作成し、文科省から承認を得た。令和2年度に緊急に導入したeラーニングシステムを次年度以降も継続して利用できることとし、2020年度のeラーニングシステムを用いた授業の受講パターン（基礎科目・専門基礎科目）をとりまとめて教員に公開した。グローバル化を目指す大学として、学生に必要な学習環境の検討や英語教育の内容・進め方について学務委員会で共有・検討し、外部試験の導入や結果の分析について具体案を検討することとした。また、科目別満足度調査で学生満足度が低く受講生が少ない科目について、内容を精査し科目の変更や内容の見直しを実施した。一方、IPE科目については、国内での多職種協働への理解を高めるため、地域多職種協働実習を設定し、2022年度より開講することにした。

助産学専攻科では、第5次カリキュラムのカリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーを作成した。2022年度早期に大学ホームページに掲載予定である。

大学院ではCNSコースに精神看護学を新設して3コースとした。また、理学療法士・作業療法士指定規則改訂に対応し、「医療と教育論」を新設し、2022年度から開講することにした。研究指導に関しては、博士前期課程での副指導教員の配置を必須とし、専攻・領域を超えた指導を実施するため、研究発表会を合同で開催した。

学部の成績評価、単位認定、学位授与の適切性については、ガイダンス、学生便覧を用いてGPA制度やその活用について学生へ周知したうえで実施している。また、レポートや課題等の評価についても、評価視点、模範解答等を学生に公示し、ディプロマ・ポリシーに基づき、学務委員会による成績素点を基礎とした厳格・公正な成績評価及び単位認定を継続して適切に実施した（統計資料編15 GPA）。

学部学生の学修成果については、学務委員会が全体を取りまとめ、教授会で最終確認・認定するという方式で、学生の学修状況を把握している。令和3年度も継続して、コースコーディネーター及び学務委員

によるシラバスの精査、定期的なシラバスの点検の実施、教育内容の体系的編成や教育方法の適切性に関する評価を行い、教育の改善を図った。また、シラバスに各学科における先修要件を受講要件に記載することを教員間で共有し、学生が体系的に学修していくための履修のステップがわかりやすくなるように改善した。また、本学が高等教育の修学支援制度対象機関となったことに伴い、必要要件である実務経験を有する教員を担当内容についてシラバスに記載した。

5. 学生の受け入れ（ポリシーの明示・公表、選抜の適切性・公正性、定員管理、点検・評価-改善・向上）

学部では、従来のアドミッション・ポリシー（AP）をより具体的に修正し、大学ホームページに掲載し、パンフレットを作成し明示した。APを高校連絡会や高校訪問等で周知を図った。入試実施部会及びアドミッションセンターを中心に、新型コロナウイルスへの対応に注意し、学生の募集を積極的に行った（統計資料編3 オープンキャンパスの概要、5 大学体験プログラム実績、2 入学者選抜試験結果）。県内出身生徒の受験を促進する各種大学体験プログラムは新型コロナウイルス感染状況をみながら実施し、県内高校連絡会は2回開催した（統計資料編5 大学体験プログラム、4 県内高等学校連絡会参加校数）。

学部の入学試験は、学校推薦型選抜、一般選抜（前期日程・後期日程）を実施し、各々の試験において入学者が適正になるよう合格者数を決定し、在籍学生数の管理を適切に行った（統計資料編1 大学の定員管理状況）。

助産学専攻科は、推薦入試、および一般入試の制度の周知および受験生の確保のため、オンラインで説明会を開催し広報活動を行った（統計資料編7 助産学専攻科説明会の概要）。受け入れ方針等に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を実施した（統計資料編2 入学者選抜試験結果）。令和3年度は実習施設を確保し、定員10名の入学生を受け入れた。（統計資料編1 大学の定員管理状況）。

大学院においては、学生募集要項や大学ホームページ、大学説明会のほか、学術雑誌への入試情報の掲載、関係機関へのリーフレットの配布等を積極的に行い、アドミッション・ポリシーの周知を継続して実施した。広報として使用しているチラシやポスターにQRコードを付記し、webでの情報収集や説明会の参加申し込みができるようにした。社会人の積極的な受け入れを促進するため、実習病院や関連機関で就業している専門学校卒業生への入学資格認定制度の周知、就業を継続しての履修が可能なこと等、社会人入学者に対する制度の周知に努めた。大学院説明会をオンデマンド型で実施し、アンケートもweb回答とした。入学試験は大学院選抜部会が中心となり、学長指名による部会長の下、研究科の教員及び事務職員の体制により、試験実施や入学試験の問題の作成から採点基準・評価方法を整備し、円滑・公正に実施した。筆記試験・面接試験とも、評価者に対して公平・公正な評価の重要性を周知し、合否評価の公平性に取り組んでいる。2021年度も引き続き広報活動に努めた結果、定員を上回る受験生の確保ができた（統計資料編1 大学の定員管理状況、2 入学者選抜試験結果）。

6. 教員・教員組織（編成方針の明確さ、教育課程との整合性、教員人事の適切性、質の向上）

学部、大学院共に教育理念・目的を達成するため、教育・研究を担当するに相応しい教員の確保と組織づくりの実現を目指して、大学が求める教員像及び教員組織の編成方針について大学幹部会議、総務委員

会において議論した。その結果、法人化のタイミングで教員組織を学部・大学院と分離することで、教員組織の垣根を無くした学部・大学院教育・研究を推進する方向性が打ち出され、教職員に説明があった。

また、研究・教育などを考慮した定量的な教員評価の導入に向け検討を開始した。

教員公募について、早期の公募、公募期間の延長、採用基準の数値化・明確化を図った（統計資料編 10 教員異動実績、9 教員組織）。

SD・FD 委員会が主体となり、教職員が連携し、教育・研究・臨床の向上を目指して能力開発に取り組んだ。全学 SD・FD 及び IPUHS ミーティング 3 回、公開授業 1 回、学長と学生の懇談会を 1 回開催した。全学 SD・FD 研修は、「本学カリキュラムの将来を考える」をテーマに、オンラインで山形県立保健医療大学の取り組みについての講演から、本学の強みを活かしたブランディング、教員からの意見抽出や合意形成のあり方などについてディスカッションを実施した（統計資料編 14 教員資質向上対策研修関係）。また付属病院と共同で 3 月 5 日に「大学法人化に関する説明会」を実施した。SD・FD 研修会等の開催実績は終了時のアンケートと出席率で実施しているが、開催効果の評価方法の検討は実施していないため、次年度への引継ぎとなった。

研究不正防止に向け、不正防止計画推進本部にて、研究不正案件の罰則規定を定めた。また、コンプライアンス研修会、研究倫理研修会、研究倫理 e-Learning 研修を実施した。外部研究資金の獲得推進に向け、URA を新規採用し、科研費獲得の増加を目指した。（統計資料編 27 科学研究費補助金の採択状況）。

7. 学生支援（学生支援方針の明示、支援体制の整備・適切性、点検・評価、改善・向上）

学生支援は、クラス担任による修学支援、保健室を中心とした健康相談、学生相談室を中心とした学生相談、キャリア支援センターを中心とした就職支援が各部署でそれぞれなされており（統計資料編 21 キャリア支援センター利用実績、22 求人状況、23 学生相談室、保健室利用実績、24 日本学生支援機構 奨学金の推薦人数）、学生便覧やホームページ、学生用ポータルサイトに掲載するとともに、年度始めのガイダンスにおいて学生への周知に努めた。新たに担任になった教員や新任教員に対しては、クラス担任マニュアルが配布され、学生支援の方法について周知がなされた。これら学生支援担当部署での支援活動は学生委員会で共有され、問題が生じた際には迅速に連携をとり対応にあたった。

学生相談については、学生相談員の増員とハラスメント専門家の相談員の増員を決定した。さらに、性の多様性に関する基本方針について、ダイバーシティ委員会とともにマニュアルの作成に着手し草案を作成した。

新型コロナウイルス感染症関係では、学生団体活動によるクラスター対策として、予防策を立案し実施した。

8 教育研究等環境（整備方針、施設・設備、図書・学術情報サービス提供体制、支援環境整備、研究倫理遵守措置、点検・評価-改善・向上）

教育研究用備品の計画的な更新あるいは整備のため、教育研究環境整備委員会で審議し、施設点検、補修、備品更新計画を策定し、優先度の高い教育用備品から順次更新を進めた。

アクティブラーニング推進の教育目標に沿って、教育用のシミュレーション室（あいらぼ）は環境整備が継続され、自己学習環境としての場として活用されつつあるが、令和3年度も COVID-19 の影響で、外部からの利用者が減少した（統計資料編 17 あいらぼ利用実績）。ラーニングコモンズは、自宅の通信環境が整わない学生がオンライン授業を受講する目的で活用されており、さらなる学生の主体的学習を推進する教育環境の整備として学内無線 LAN 利用可能エリアを拡大した。

本学全学科に関連する「医療の視点と生活者の視点を備えた医療専門職の育成」に寄与する図書を選定について、学科・センター・付属病院の研究・学術メディア委員会委員を中心に選書を行った。必要な図書を効率的に整備するための予算の有効活用の観点から、現在の図書館機能の維持・発展に努めた。図書館、学術情報サービスの提供に関して、デジタルサイネージを活用し、情報提供を充実させたり、特別展示等の企画を通して図書貸出数の増加を図ったり、卒業生に向けた活用支援等、様々な活動を通して図書館への入館者及び利用者の増大に取り組んだ。令和3年度は COVID-19 対策を継続したため、入館者数、貸出数ともに低い値であった（統計資料編 33 図書館利用実績、34 図書数の推移）。

研究支援として、科学研究費補助金等の競争的研究資金の獲得に向けた支援システムを検討し、令和3年度から URA を配置し、申請書類の添削や分析から、科研費獲得に必要な内容についての情報提供を行った。

学内公募研究に関しては、研究報告会で学外の有識者を交えた評価を実施し研究活動の向上に努めた。また、学内公募研究への応募を希望する教員は事前ヒアリングを受けることにし、研究内容のブラッシュアップを図った。

研究倫理を遵守した研究の推進のための支援では、倫理委員会が中心となって、教員・職員・大学院生及び学部学生を対象とした研修会の実施と、『科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得ー』（日本学術振興会編）に基づいた e-ラーニング教材「eL CoRE」（日本学術振興会）を用いて研究倫理に関する e-ラーニング教育を実施した。また、教員および大学院生の倫理審査申請予定者を対象に研究倫理研修会を企画・実施し、研究倫理の浸透を図った。倫理委員会は月 1 回の頻度で定例に開催し、審査結果は教授会に報告し、学内ホームページに結果を公開している（統計資料編 32 倫理審査実績）。

動物実験委員会では、平成 28 年度に公私立大実験動物施設協議の外部評価を受審し、適切に運営していることの認証を受けており、令和3年度も継続して適切な運営に努めた。動物実験倫理の向上のために講習会の開催と動物慰霊祭を行った。動物舎・実験室を適正に維持・管理するために、微生物モニタリング、特定外来生物・遺伝子改変動物の飼養の管理、利用状況を把握のための巡回視察等を行い、併せて動物実験に関する情報公開を進めた。

大学敷地内全体の教育研究環境整備の一環として、保健福祉部と大学幹部教職員との間で定期的な協議を実施し、法人化を含めた今後の大学の在り方について議論するとともに、構内設備、教育環境備品の更新計画について協議を行った。

9 社会連携・社会貢献（方針、適切な還元、点検・評価-改善・向上）

社会連携および地域貢献事業は、国際交流に関する取り組みも社会連携の枠組みの中で推進してきた。

地域貢献研究センター運営委員会が中心に取り組んだ地域貢献事業は、学内での実施に関するものとしては、教育課程として摂食・嚥下障害看護認定看護師教育課程、専任教員養成講習会を看護専門職対象に定例開講している（統計資料編 36 公開講座開講実績、37 専任教員養成講習会、38 認定看護師教育課程）。また、地域貢献研の研究テーマの募集・研究費の配分・研究成果の報告会を実施した（統計資料編 39 地域貢献研究テーマ）。学外に関連する事業は、一般住民の方々を対象とした公開講座、小学生向けは夏休み親子科学教室ともに、COVID-19 の影響で中止とした。医工連携事業、国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同研究は継続している（統計資料編 29 外部資金受入状況）。

国際交流は、国際交流委員会が中心となり計画を立案したが、COVID-19 の影響で海外派遣研修、国際多職種協働実習は中止となった。しかし、作業療法学科と高雄医学大学作業療法学科間の Web 会議を開催し、学生間もオンラインによる国際交流を行った。一方、高雄医学大学との学科間の個別協定は、看護学科では 2025 年まで締結、理学療法学科、作業療法学科では 2025 年まで延長となった。新たにドイツ Bochum 健康科学大学と今後の連携について Web 会議を実施した。

各教員の実施した社会貢献/地域貢献活動の実績は、上期・下期の 2 回に分けて、地域貢献研究センターで情報を集約した。各教員の実施した社会貢献/地域貢献活動の実績は、教員評価項目の一つになっており、各教員が作成した報告書について、教員が所属する学科長/センター長が確認し、さらに学長が評価している。取り組みの成果を研究発表会等で公開することを通して、学内教員相互の向上並びに地域への還元の機会となっている。

10. 大学運営・財務（方針、権限の明示・適切な運営、予算執行の適切性、事務組織の機能、職員の質の向上、点検・評価-改善・向上）

大学運営の方針は「第二期茨城県立医療大学改革プラン検討委員会報告書」に基づき、各委員会で毎年行動計画を策定し実践している。加えて質の高い教育・研究の実現に向けた第 2 期アクションプランを確実に実現していくために、作成した工程表をもとに進捗状況を確認・評価するためのアクションプラン運用会議において評価を実施してきたが、令和 3 年度が前期 5 年の最終年度であること、独立行政法人化に向け中期目標・中期計画の検討を開始したことから、アクションプランの評価と並行して、計画立案を実施した。さらに大学の外部評価として、外部委員からなる大学運営協議会で大学の運営状況について年 2 回評価を得た。

事務職員の質の向上は、大学運営内容の質を左右する重要事項であることから、転入者ガイダンスや財務会計事務出前研修を開催するとともに、公立大学協会が主催する研修会へ管理職だけでなく若手職員を派遣し、資質向上に努めた。教職員共通の研修としては、SD・FD 委員会が主体となり、IPUHS ミーティング研修会を全 3 回開催した（統計資料編 45 主な事務職員研修）。

教職員が連携し、キャリア支援センターやアドミッションセンター及び教育・学修センター等について円滑で効率的な運営に努め、大学の質の向上を図った。予算に関しては、財務会計出前研修などを実施し教員・事務職員相互の理解を深め、財務規則等に基づき適正な予算執行を行った。また、開学 25 年以上が経過し、大学内の施設設備の老朽化も見られるため、計画的な更新、修繕を進め、施設・設備のための予算を確保し長寿命化を図った。また、今年度予定していた設備・機器の更新に計画通りに取り組んだ。

上記の運営に関する適切性については、県の監査実施に伴い監査調書を作成し定期的に点検・評価を行っており、監査実施後の評価において手続き上の漏れについて指導があったため、再発防止のため事務処理マニュアルを明記するなど、当該手続きにかかるチェック体制を強化した。

教育研究活動を安定して推進するための財政基盤の確保については、各種の研究助成財団が運営する研究助成金についての情報提供、若手教員を対象とした科学研究費等の競争的研究資金の獲得に向けての勉強会及び一般教員を対象とした同様の講習会を実施している。教員の外部資金獲得への意識の醸成を継続して行うことにより、教育研究を安定して遂行するばかりでなく、質の改善のために必要かつ十分な財政的基盤を確立することに努めた。病院職員の科学研究費助成事業(奨励研究)への応募の推進方策について検討し、病院職員への獲得支援を行ったところ、2名の応募があった。

1 1. 付属病院

付属病院は医療系教育課程の4学科(看護学、理学療法学、作業療法学、放射線技術科学)を持つ本学の教育において、学生の臨床実習における教育並びに大学の教員及び院内職員の臨床研究・研修、および他の医療職養成校からの学生実習受け入れにおいて重要な役割を果たしている。また、リハビリテーション専門病院として県内のリハビリテーション医療の推進をはじめ、リハビリテーション環境の改善に向けた支援を行っている。

リハビリテーション医療推進においては、茨城県地域リハビリテーション支援センターとリハビリテーションアドバイザー研修会をコロナ禍のため、遠隔授業の形式で開催した。

今年度の全国自治体病院学会には11演題を発表し、2演題(看護部、放射線技術部)が優秀賞を受賞した。

その他

【新型コロナウイルス感染拡大への対応】

令和3年度も継続して新型コロナウイルス感染拡大への対応を実施した。

令和元年度末に設置した「茨城県立医療大学新型コロナウイルス感染症対策会議」において、安否確認システムを利用した毎日の健康観察を継続し、体調不良の記載状況から、学生の状況把握を実施し、感染拡大を未然に防ぎ、適切な感染対策を講じて学校行事を実施した。授業や学内実習、演習への対応、(濃厚)接触者への対応、大学ウェブページでの大学の対応の説明等を令和2年度と同様に継続実施した。その中で、学生のクラスター対応が2件あり、いずれも授業や演習、グループワークでの感染拡大は見られず、適切な感染対策の実施が確認できた。

○統計資料編(H 2 9 ~ R 3)

【入学者の受け入れに関すること】

1	大学の定員管理状況	1
2	入学者選抜試験結果	1
3	オープンキャンパスの概要	2
4	県内高等学校連絡会参加校数	3
5	大学体験プログラム実績	3
6	高校生公開授業	3
7	助産学専攻科説明会の概要	3
8	大学院説明会の概要	4

【教育に関すること】

9	教員組織	5
10	教員異動実績	5
11	教員学位取得状況	5
12	職員数 (S S 比・S T 比)	6
13	大学院研究指導関係	6
14	教員資質向上対策研修等	7
15	G P A	8
16	筑波大学・茨城大学との単位互換実績	8
17	あいらぼ利用実績	8

【学生支援に関すること】

18	国家試験合格率	9
19	就職率	9
20	進路状況と県内定着率	9
21	キャリア支援センター利用実績	9
22	求人状況	10
23	学生相談室、保健室利用実績	10
24	日本学生支援機構 奨学金の推薦人数	11
25	ティーチング・アシスタントの状況	11

【研究に関すること】

26	専任教員の研究業績	12
27	科学研究費補助金の採択状況	13
28	科学研究費間接経費の用途	13
29	外部資金の受入状況	13
30	個人研究費配分額	14
31	教員の研究に係るサポート状況	14
32	倫理審査実績	14
33	図書館利用実績	15
34	図書数の推移	15

【地域貢献に関すること】

35	教員の地域貢献活動状況	16
36	公開講座開講実績	16
37	専任教員養成講習会	17
38	認定看護師教育課程	17
39	地域貢献研究テーマ	18

【国際交流に関すること】

40	国際交流の状況	19
----	---------	----

【情報発信に関すること】

41	広報関係	19
----	------	----

【付属病院に関すること】

42	付属病院患者統計	20
43	付属病院予算の当初予算額及び決算額	21
44	学生の受け入れ状況	21

【業務運営・財務に関すること】

45	主な事務職員研修	22
46	大学予算の当初予算額及び決算額	23

【入学者の受け入れに関すること】

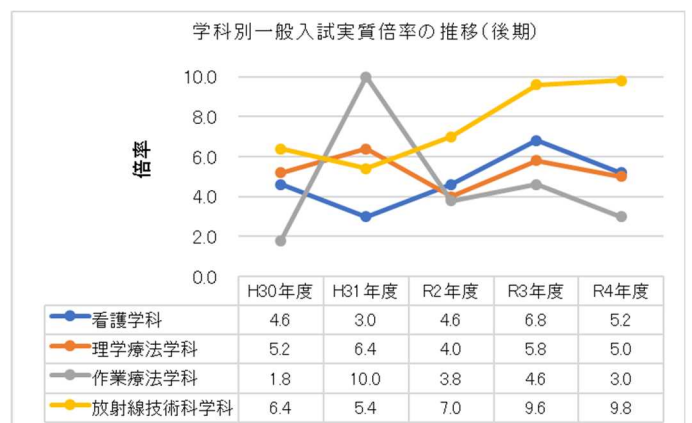
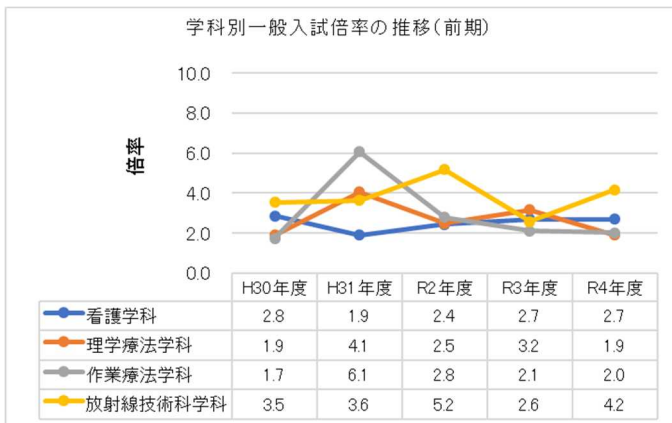
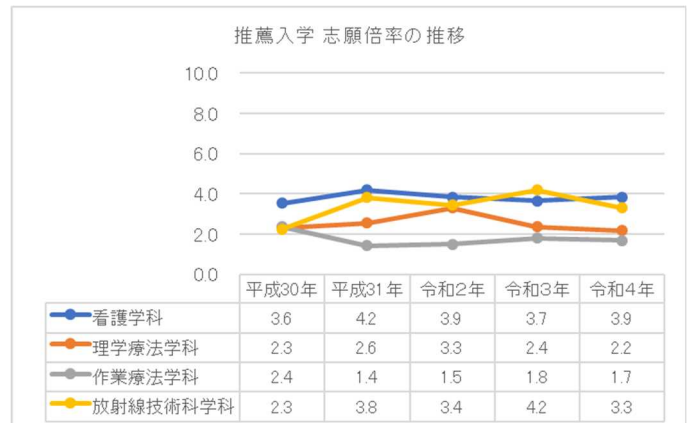
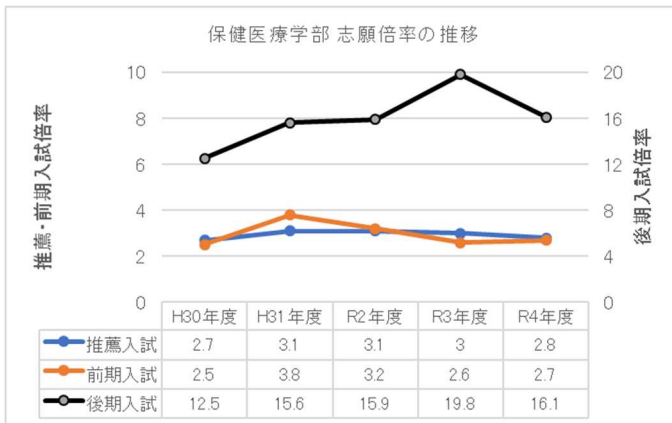
1 大学の定員管理状況

各年度5月1日現在

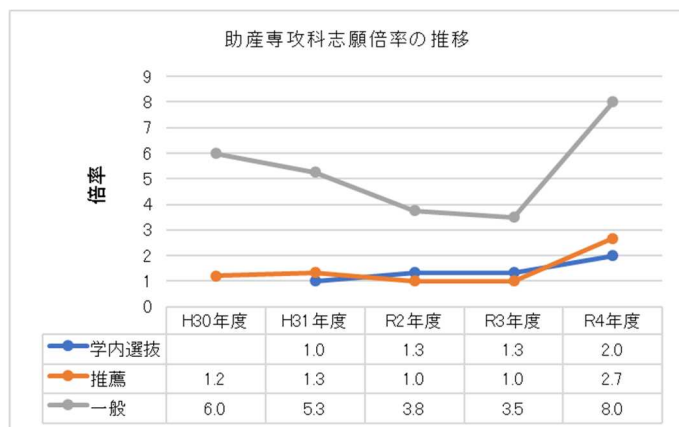
専攻	入学定員 (人)	収容定員 (人)【A】	在籍者数(人)【B】					在籍学生数比率【B】／【A】					
			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
保健医療学部	170	680	706	706	704	704	704	1.04	1.04	1.04	1.04	1.04	
看護学科	50	200	209	208	206	206	209	1.05	1.04	1.03	1.03	1.05	
理学療法学科	40	160	170	168	167	167	166	1.06	1.05	1.04	1.04	1.04	
作業療法学科	40	160	164	168	167	167	168	1.03	1.05	1.04	1.04	1.05	
放射線技術科学科	40	160	163	162	164	164	161	1.02	1.01	1.03	1.03	1.01	
助産学専攻科	10	10	10	11	8	10	10	1.00	1.10	0.80	1.00	1.00	
博士前期	看護学専攻	6	12	15	16	15	12	14	1.25	1.33	1.25	1.00	1.17
	理学療法学・ 作業療法学専攻	6	12	17	14	14	15	16	1.42	1.17	1.17	1.25	1.33
	放射線技術科学専攻	3	6	7	7	8	9	5	1.17	1.17	1.33	1.50	0.83
博士後期	保健医療科学専攻	5	15	28	30	28	28	36	1.87	2.00	1.87	1.87	2.40

2 入学者選抜試験結果

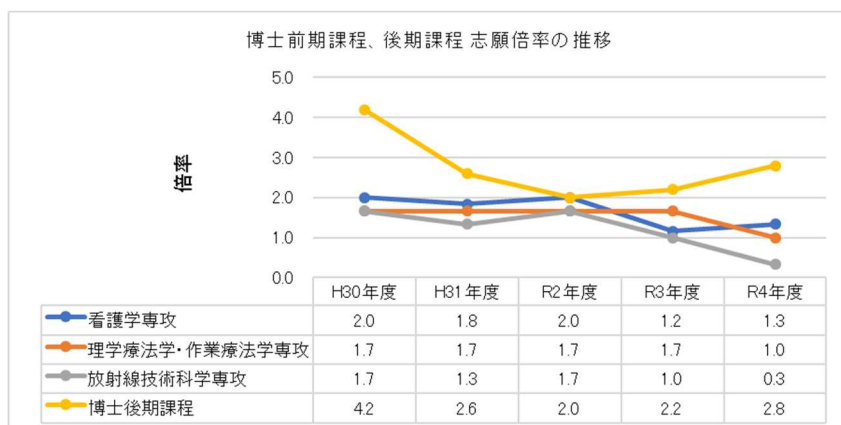
<保健医療学部>



<助産専攻科>



<大学院>



3 保健医療学部オープンキャンパスの概要

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
期 日	平成29年7月22日(土) 平成29年7月23日(日) 何れも、9時30分～15時00分	平成30年7月21日(土) 平成30年7月22日(日) 何れも、9時00分～15時30分	令和元年7月20日(土) 令和元年7月21日(日) 何れも、9時00分～15時30分	オンライン相談会 令和2年8月2日(日) 令和2年8月23日(日) リアルオープンキャンパス 令和2年10月10日(土) 令和2年10月11日(日) 両日とも9時00分～15時30分	オープンキャンパス 令和3年7月17日(土) 令和3年7月18日(日) オンライン相談会 令和3年8月21日(土) 令和3年8月22日(日)
場 所	大講義室ほか	大講義室ほか	大講義室ほか	大講義室ほか	大講義室ほか
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション(入学試験の概要、学生生活及び進路・就職状況説明) ○保護者のための進学ガイダンス ○各学科紹介 ○各学科等による体験コーナー、模擬授業など ○キャンパスツアー ○各種コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・入試質問コーナー、過去問配布 ・経済支援質問コーナー ・大学紹介ビデオ上映 ・大学紹介パネル展示 ○図書館見学、参考図書閲覧 	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション(入学試験の概要、学生生活及び進路・就職状況説明) ○学生による学科紹介 ○保護者のための進学ガイダンス ○各学科等による体験コーナー、模擬授業など ○キャンパスツアー ○各種コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・入試質問コーナー、過去問配布 ・経済支援質問コーナー ・大学紹介ビデオ上映 ・大学紹介パネル展示 ○図書館見学、参考図書閲覧 	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション(入学試験の概要、学生生活及び進路・就職状況説明) ○学生による学科紹介 ○保護者のための進学ガイダンス ○各学科等による体験コーナー、模擬授業など ○0B・0Gの活躍紹介 ○キャンパスツアー ○各種コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・入試質問コーナー、過去問配布 ・経済支援質問コーナー ・大学紹介ビデオ上映 ・大学紹介パネル展示 ○図書館見学、参考図書閲覧 	<ul style="list-style-type: none"> 【リアルオープンキャンパス】 ○大学紹介動画公開 オリエンテーション、各学科紹介、ミニ講義等 ○オンライン相談会 <ul style="list-style-type: none"> 入試、経済支援、学科教員、学科学生、キャリア支援の項目で個別相談を実施 【リアルオープンキャンパス】 ○各学科等による体験コーナー、ミニ授業など ○キャンパスツアー ○各種コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・入試質問コーナー ・過去問配布 ・経済支援質問コーナー 	<ul style="list-style-type: none"> 【オープンキャンパス】 ○オリエンテーション(学長挨拶、入学試験の概要、学生生活) ○学生による学科紹介 ○キャンパスツアー ○各種コーナー(過去問配布、入試相談、経済支援相談) ○各学科等によるコーナー(模擬授業、体験プログラムなど) 【オンライン相談会】 ○個別相談(各学科教員・学生、入試、修学支援、キャリア支援)
参加者	2,592名	2,901名	3,068名	オンライン相談会：62名 リアルオープンキャンパス：537名	オープンキャンパス：898人

4 県内高等学校連絡会参加校数

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
開催日	5月24日	7月8日	5月23日	7月6日	5月22日	7月5日	6月24日	7月3日	5月20日	7月2日
参加校数	31	22	34	30	40	24	31	32	45	24

5 大学体験プログラム実績

	平成29年度				平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度			
	回数		人数		回数		人数		回数		人数		回数		人数		回数		人数	
		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)		(内 県外 開催)
大学見学会	15	1	745	40	13	3	637	165	16	3	754	110	5	0	68	0	4	0	156	0
出張模擬授業	32	6	1,673	60	28	3	1,448	65	35	4	2,169	200	20	1	1,149	40	25	1	1,296	20
テーマイト体験プログラム	38	0	51	0	36	0	103	0	50	0	127	0	32	0	97	0	19	3	55	3
進路説明会	21	2	-	-	32	1	-	-	18	1	-	-	22	0	-	-	21	-	-	-

6 高校生公開授業

	科目名	科目責任者	受入れ人数
平成29年度	基礎生物学	大西教授	1
	学問の時代を創った人々	才津教授	4
	臨床心理	山川教授	1
平成30年度	基礎生物学	大西教授	7
	化学（グループB）	相良准教授	2
	エンカウンター演習	佐藤（純）教授	1
	リハビリテーション概論	四津准教授	5
	臨床心理	山川教授	5
	学問の時代を創った人々	才津教授	3
	健康障害の成り立ち I	馬場教授	5
令和元年度	基礎生物学	大西教授	6
	化学（グループB）	相良准教授	1
	エンカウンター演習	佐藤（純）教授	4
	臨床心理	山川教授	6
	学問の時代を創った人々	才津教授	1
令和2年度	—	—	0
令和3年度	基礎生物学	大西教授	5
	化学（グループB）	相良准教授	1
	臨床心理	山川教授	3

7 助産専攻科説明会の概要

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
期 日	平成29年6月11日(日) 13時30分～16時30分	平成30年6月10日(日) 13時30分～16時30分	令和元年6月9日(日) 13時30分～16時30分	令和2年6月17日(水)から 令和2年8月31日(月)まで	令和3年6月16日(水)から 令和3年8月30日(月)まで
場 所	本学講義棟、実習棟	本学講義棟、実習棟	本学講義棟、実習棟	オンライン配信	オンライン配信
主な内容	①各専攻・領域共通：大学院概要、入学試験概要、奨学金・入学料等の減免 ②専攻・領域別：各専攻・領域別の説明及び面談等	①各専攻・領域共通：大学院概要、入学試験概要、奨学金・入学料等の減免 ②専攻・領域別：各専攻・領域別の説明及び面談等	①各専攻・領域共通：大学院概要、入学試験概要、奨学金・入学料等の減免 ②専攻・領域別：各専攻・領域別の説明及び面談等	①各専攻・領域共通：大学院概要、入学試験概要、奨学金・入学料等の減免 ②専攻・領域別：各専攻・領域別の説明及び面談等	①各専攻・領域共通：大学院概要、入学試験概要、奨学金・入学料等の減免 ②専攻・領域別：各専攻・領域別の説明及び面談等
参加者	47名	37名	29名	30名	25名

8 大学院説明会の概要

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
期 日	平成29年6月10日(土) 13時00分～16時00分	平成30年5月26日(土) 13時00分～16時00分	令和元年5月25日(土) 13時00分～16時00分	【動画配信】 令和2年6月13日(土) ～6月26日(金) 【質問回答】 令和2年7月1日(水)	令和3年5月22日(土) 13: 00～16:00
場 所	本学講義棟, 実習棟ほか	本学講義棟, 実習棟ほか	本学福利厚生棟, 実習棟ほか	Zoom	本学講義棟, 実習棟ほか
主な内容	①教育課程や入学者選抜方法等の説明 ②実習室見学 ③教員・学生との個別相談	①教育課程や入学者選抜方法等の説明 ②実習室見学 ③教員・学生との個別相談	①教育課程や入学者選抜方法等の説明 ②実習室見学 ③教員・学生との個別相談	①教育課程や入学者選抜方法等の説明 ②質疑応答	①教育課程や入学者選抜方法等の説明 ②教員や先輩(修了生)との個別相談 ③実習室見学
参加者	36名	36名	32名	31名	49名

【教育に関すること】

9 教員組織（令和3年度4月1日現在）

＜学科、センター、職階別人数＞

(人)

所 属	教 授	准教授	講 師	助教	計	特任助手
学 長	1				1	
助産学専攻科	1	1	0	1	3	
看護学科	7	9	1	8	25	5
理学療法学科	5	4	1	6	16	4
作業療法学科	4	3	2	5	14	3
放射線技術科学科	6	3	0	4	13	4
人間科学センター	5	2	1	1	9	3
医科学センター	8	2	0	1	11	4
付属病院	1	2	7	0	10	
合 計	38	26	12	26	102	23

＜職階ごとの年齢構成＞

・保健医療学部

年代	人数					構成比
	教授	准教授	講師	助教	計	
30歳代	0	2	3	18	23	21.9%
40歳代	4	10	5	11	30	28.6%
50歳代	18	13	5	0	36	34.3%
60歳代	15	1	0	0	16	15.2%
計	37	26	13	29	105	100.0%

・大学院

年代	人数					構成比
	教授	准教授	講師	助教	計	
30歳代	0	1	1	7	9	13.2%
40歳代	4	10	1	3	18	26.5%
50歳代	17	8	2	0	27	39.7%
60歳代	14	0	0	0	14	20.6%
計	35	19	4	10	68	100.0%

10 教員異動実績

	平成28年度内	平成29年度内	平成30年度内	令和元年度内	令和2年度内
新規採用	11	11	4	7	6
昇任	4	5	3	4	2
退職	11	6	7	5	13

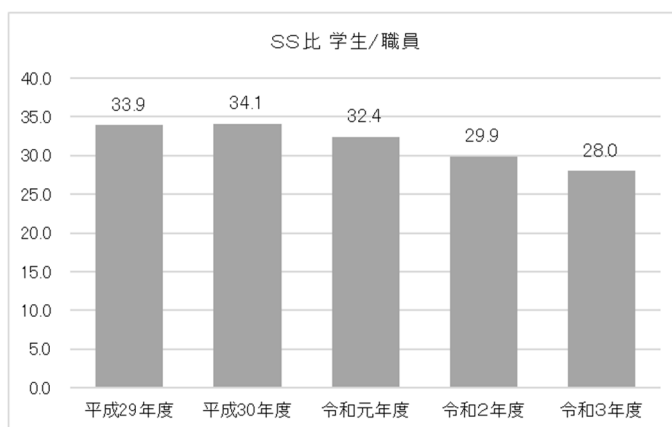
11 教員学位取得状況（R3年4月1日現在）

	博 士	修 士	学 士	計
学 長	1			1
教 授	34	3		37
准教授	21	4	1	26
講 師	3	4	5	12
助 教	12	14		26
合 計	71	14	6	102

12 職員数

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
大学	常勤職員	23	23	24	26	28
	総務課	15	14	16	19	19
	教務課	8	9	8	7	9
	臨時及び非常勤	21	21	18	20	22
	総務課	12	12	10	13	10
	教務課	9	9	8	7	12
	小計	44	44	42	46	50
付属病院	常勤職員	178	163	174	180	172
	病院管理課	9	10	9	9	9
	医療職	169	153	165	171	163
	臨時及び非常勤	36	40	36	41	46
	病院管理課	8	7	7	7	12
	医療職	28	33	29	34	34
	小計	214	203	210	221	218
休職者等		17		2	1	3
合計		275	247	254	268	271

<ST比、SS比>



13 大学院研究指導関係

<研究指導教員、補助教員総数>

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
前期課程	研究指導教員	48	48	45	44	46
	研究指導補助教員	12	11	11	20	16
後期課程	研究指導教員	40	41	38	38	40
	研究指導補助教員	5	5	5	15	13

<研究指導教員審査人数>

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
前期課程	研究指導教員	1	2	1	3	3
	研究指導補助教員	0	1	0	12	1
後期課程	研究指導教員	1	3	1	2	3
	研究指導補助教員	2	1	0	13	1

